

**「総合的な学習の時間」とリンクする「道徳の授業」に向けて 高齢者に関わる社会問題(認知症など)の教材から**

著者	福島 信也
雑誌名	森ノ宮医療大学紀要
巻	12
ページ	69-84
発行年	2018-03-20
URL	<a href="http://id.nii.ac.jp/1564/00000099/">http://id.nii.ac.jp/1564/00000099/</a>

## 「総合的な学習の時間」とリンクする「道徳の授業」に向けて —高齢者に関わる社会問題（認知症など）の教材から—

福島信也

森ノ宮医療大学 保健医療学部 看護学科

### 要 旨

高齢者の人口の増加とともに、認知症の人も増加している。

2004年までは「痴呆」という言葉が使われていたが、高齢者の尊厳に対する配慮に欠く表現ということで、「認知症」という言葉が使われるようになった。しかし、多様な情報によって症状のネガティブな部分だけが強調されてしまい、「物忘れが多くなる」「自分がした行動を覚えていない」「周りに迷惑をかける」「介護や他の人からのサポートが必要」「家族が困っている」などの意識をもたせてしまっている現状がある。

超高齢社会を迎えている日本にとって、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現が重要課題である。そのためには、認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進、認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進などの施策を展開しなければならない。

そこで、本研究では、地域の担い手となる子どもたちの育成も重要課題と考え、平成30（2018）年度から小学校（中学校は再来年度）でスタートする「特別の教科 道徳」の教科書・教材において、認知症がどのように扱われているのかについて検討するとともに、認知症に対するアンケートを実施し、理解度等についても検討することとした。

その結果、高齢者が主人公または主人公と関わっている教材は1～6年の全学年に広く分布し、現代的な課題としての高齢者に関わる社会問題（認知症など）の教材も含まれている。また、アンケート結果からは、児童・大学生の認知症に対する意識の差異はあまりない、などの知見が得られた。

今後の課題としては、「認知症」を正しく理解し、「認知症」の人や家族を温かく見守り、安心して暮らせる地域の担い手となる意識を培っていく「総合的な学習の時間」と「道徳の授業」のリンクした取り組みを実践しながら精査したいと考えている。

キーワード：高齢者、認知症、小学校の道徳教科書、認知症に対するアンケート、総合的な学習の時間

## 1 緒言

65歳以上人口が総人口に占める割合である高齢化率は、平成27（2015）年国勢調査「抽出速報集計結果」<sup>1)</sup>では26.6%となり、4人に1人が65歳以上の高齢者となっている。世界最高水準の高齢化率で、「厚生白書 昭和61(1986)年版」<sup>2)</sup>で指摘された超高齢社会が現実のものとなっている。

また、「2013年厚生労働省研究班」<sup>3)</sup>によれば、我が国の認知症の人は約462万人で、高齢者の約15%と推計されている。2015年厚生労働省認知症施策推進総合戦略の推計では、その数は増え続け、2015年には約700万人になると予測されている。そのため、雑誌や報道番組などでも認知症に関する特集を数多く取り上げている。

長生きできることは喜ばしいことだが、超高齢社会の重要な課題の一つで老後の最大の不安が認知症である。認知症になると、いろいろな原因で脳の働きが悪くなり、様々な障がいが起こり、生活するうえで支障が出てきて、それまでできていたことができなくなってしまうりする。そのため、本人は大きな苦しみと悲しみを抱くことになり、サポートする家族にも大きな負担がかかる。しかし、みんなが認知症について正しい知識をもち、助けあうことができれば、認知症の人もその家族も穏やかに暮らすことができるはずである。

そのためには、地域の担い手となる子どもたちを、認知症に関する知識をもち、認知症の人やその家族を温かく見守ることのできる人材として育成することが最重要課題となる。すでに、平成6（1994）年に文部省（現在の文部科学省）から発行された「中学校読み物資料とその利用―主として集団や社会とのかかわりに関すること―」<sup>4)</sup>の「一冊のノート」に、「高齢化社会を迎え、今後、この資料に見られるような問題は、ますます増加してくるものと思われる。しかし、自分の成長に伴い、逆に、衰えゆく祖父母に対して敬愛の念をもつことのできない生徒もみられるようになる。資料を通して、老人痴呆に苦悩しながらも家族のことを一筋に思い続ける祖母の心情に着目させ、祖父母への敬愛や感謝の念を深めるとともに、家族の一員としての自覚を深めたい。」(p. 90) という記述があり、子どもたちが認知症に対する知識をもつことの重要性を指摘している。また、「中学校道徳 読み物資料集」<sup>5)</sup>では、「違うんだよ、健司」に、「この頃変なんだ。……もの忘れがひどくなって、何度も同じことを言うようになったら、この頃は家を出て行って帰って来れなくなるんだ。昼でも夜でもお構いなしでね。だから何か物音がすると、どこかに行ったんじゃないかと一晩中気が気でなくて……」(p. 19) と認知症の症状が具体的に記述されており、認知症に対する知識の獲得を促していることが伺える。

認知症に関する知識をより深め、それを活かして実際に地域で活動できるようになるためには「総合的な学習の時間」を活用することが考えられるが、その前段階として、道徳の授業を使って高齢者の人に対する、敬愛や感謝の念を育てることが非常に重要であるといえる。

このことから、新しくスタートする小学校・道徳科で使用される教科書において「認知症」に関する教材をどのように扱っているのかを調査し、「総合的な学習の時間」との連携についても検討する。

## 2 目的

本研究では、「認知症」の人の尊厳のある暮らしを担保するために、地域の担い手の育成を早期に始める必要があるという観点から、小学校教育において「認知症」がどのように扱われているかを明らかにすることを目的とする。

### 3 方法

平成30（2018）年度から小学校（中学校は平成31（2019）年度）で「特別の教科 道徳」としてスタートする教科書の教材ではどのように扱っているかを調査するとともに、現在の子供たちが「認知症」に対してどのような意識をもっているかをアンケートによって検討した。

本調査は、森ノ宮医療大学学術研究センター研究倫理審査部会にて承認を受けて実施した（承認番号：2017-086）。尚、本調査における利益相反はない。

(1) 小学校道徳教科書に記載されている教材（高齢者が主人公または主人公と関わっている）について文部科学省告示第36号により、教科書の発行に関する臨時措置法施行規則（昭和23（1948）年文部省令第15号）第5条第1項の規定に基づき、平成29（2017）年度における教科書展示会の開始の時期及び期間が告示され、6月16日から大阪市立中央図書館（大阪市西区北堀江4-3-2）にて、採択される小学校道徳の検定教科書、8社6学年分の48冊セット66点が公開された。大阪市立中央図書館に通いながら、8社の教科書を精読しながら、高齢者が主人公または主人公と関わっている教材とその内容項目について調査した。

小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」<sup>6)</sup>では、内容項目とは「児童が人間として他者とよりよく生きていく上で学ぶことが必要と考えられる道徳的価値を含む内容を、短い文章で平易に表現したものである。(p. 21)

また、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」の「内容項目の指導の観点」では、高齢者に関わる記載は以下の通りである。

第1学年及び第2学年「7 親切、思いやり」において、「……指導に当たっては、幼い人や高齢者、友達など身近にいる人に広く目を向けて、温かい心で接し、親切にすることの大切さについて考えを深められるようにすることがひつようである。」となっている。(p. 40)

第3学年及び第4学年「8 感謝」において、「……日常の生活を支えてくれている地域の人々や、現在の生活の礎を築いてくれた高齢者などの先達の存在に気づき、その人々によって生活が支えられていることについて考えを深めることが大切である。」となっている。(p. 42)

第1学年～第6学年「15 家族愛、家庭生活の充実」において、「(第1学年及び第2学年) 父母、祖父母を敬愛し、進んで家の手伝いなどをして、家族の役に立つこと。(第3学年及び第4学年) 父母、祖父母を敬愛し、家族みんなで協力し合って楽しい家庭をつくること。(第5学年及び第6学年) 父母、祖父母を敬愛し、家族の幸せを求めて、進んで役に立つことをすること。」となっている。(p. 55)

第5学年及び第6学年「17 伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」において、「……我が国の発展に尽くした先人の業績や優れた文化遺産に目が向けられるようになることから、受け継がれている我が国の伝統や文化を尊重し、さらに発展させていこうとする態度を育てることが大切である。」となっている。(p. 60)

第5学年及び第6学年「19 生命の尊さ」において、「……祖先から祖父母、父母、そして自分、さらに、自分から子供、孫へと受け継がれていく生命のつながりをより深く理解できるようにする。」となっている。(p. 64)

小学校学習指導要領解説の高齢者に関わる記載の内容項目は、「親切、思いやり」、「感謝」、「家族愛、家庭生活の充実」、「伝統と文化の尊重、国や郷土を愛する態度」、「生命の尊さ」の5カ所であるが、全学年の高齢者が主人公または主人公と関わっている教材について、内容項目ごとに分類した。(表1)

(2) 「認知症」についてのアンケート調査の構成と内容

アンケート調査の実施概要は以下の通りであった。

1) 対象者

- A A大学1年次生において、特別講義「大学と地域社会」を受講した学生118名
- B B大学2年次生において、「道徳教育の理論と方法」を受講した学生17名
- C 大阪市立C小学校6年の1学級において、道徳の授業を受ける児童26名

2) 調査日

- A 平成29年6月13日(火)
- B 平成29年7月14日(金)
- C 平成29年9月29日(金)

3) データ収集方法

無記名自記式質問紙法で、記述後回収した。

4) 調査内容

I. 「認知症」について知っていますか？

- ㊦ 詳(くわ)しく知っている
- ㊧ ある程度(ていど)は知っている
- ㊨ 言葉だけは聞いたことがある
- ㊩ 知らない、聞いたこともない

II. ㊦または㊧と答えた方 「認知症」にどんなイメージを持っていますか？

III. ㊨または㊩と答えた方 「認知症」についてどんなことを知りたいですか？

5) 倫理的配慮

アンケート調査の目的・方法、得られたデータは処理後責任をもって破棄することを説明した。

## 4 結果

(1) 小学校道徳教科書に記載されている教材(高齢者が主人公または主人公と関わっている)について

表1-1～表1-8は、小学校道徳教科書に記載されている教材(高齢者が主人公または主人公と関わっている)を、出版社(8社)ごとに学年・内容項目・教材名・主題名で示した。

内容項目のアルファベットは、「A 主として自分自身に関すること」、「B 主として人との関わりに関すること」、「C 主として集団や社会との関わりに関すること」、「D 主として生命や自然、崇高なものとの関わりに関すること」を表している。また、内容項目の数字は、「第1学年及び第2学年」が19項目、「第3学年及び第4学年」が20項目、「第5学年及び第6学年」が22項目にまとめられているので、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」(p. 24～25)で示されている通し番号を表している。

表1-1 高齢者が主人公または主人公と関わっている教材一覧（学研教育みらい）

学年	内容項目	教材名	主題名
小1	B(6) 親切、思いやり	はやとのゴール	おもいやり
小1	B(7) 感謝	はちさんのバッジ	ありがとうのきもち
小1	B(8) 礼儀	ぼっかぽか	きもちのよいあいさつ
小1	D(17) 生命の尊さ	おじいちゃんのたんざく	かがやくいのち
小2	D(17) 生命の尊さ	せかいでいちばん大切なもの	かがやくいのち
小3	A(3) 節度、節制	金色の魚	自分で考えて、気持ちをよくくらし
小3	B(6) 親切、思いやり	フローレンス・ナイチンゲール物語	思いやりの心をもとう
小4	B(6) 親切、思いやり	心と心のあく手	思いやりの心をもとう
小4	B(8) 礼儀	思いがけないあいさつ	心をこめて礼正しく
小4	D(18) 生命の尊さ	わたしのいのち	命を大切にしよう
小5	B(7) 親切、思いやり	くずれ落ちた だんボール箱	相手の心を知って
小5	B(8) 感謝	おじいさんのあたたかな目	感謝して生きる
小5	D(20) 自然愛護	もったいない	自然と生きる
小6	B(7) 親切、思いやり	最後のおくり物	相手の心を知って
小6	D(19) 生命の尊さ	その思いを受けついで	生命をかがやかせて

表1-2 高齢者が主人公または主人公と関わっている教材一覧（日本文教出版）

学年	内容項目	教材名	主題名
小1	A(5) 希望と勇気、努力と強い意志	おふろばそうじ	がんばる ころ
小2	C(12) 勤労、公共の精神	森のゆうびん屋さん	おしごとは すてき
小2	C(13) 家族愛、家庭生活の充実	おばあちゃん お元気ですか	たいせつな かぞく
小3	A(2) 正直、誠実	まどガラスと魚	自分に正直に
小3	A(3) 節度、節制	ぼくを動かすコントローラー	よく考えて行動する
小3	B(6) 親切、思いやり	おじいちゃんとの楽しみ	思いやりをもって
小3	B(6) 親切、思いやり	バスの中で	相手を思いやる心
小3	B(7) 感謝	いつもありがとう	つたえたい言葉は
小4	A(3) 節度、節制	金色の魚	よくばりな心
小4	B(6) 親切、思いやり	心と心のあく手	ほんとうの親切
小4	B(8) 礼儀	あいさつができた	気持ちのよいあいさつ
小4	C(14) 家族愛、家庭生活の充実	家族の一員として	自分のやくわり
小5	B(7) 親切、思いやり	くずれ落ちた だんボール箱	温かな思い
小5	D(22) よりよく生きる喜び	かぜのでんわ	よりよく生きる
小6	B(8) 感謝	おかげさまで	感謝の心



小6	C(14)	勤労、 公共の精神	母の仕事	働くことの意義
小6	C(16)	よりよい学校生活、 集団生活の充実	母校大発見	学校を愛する心
小6	D(19)	生命の尊さ	その思いを受けついで	生命のつながり

表1-3 高齢者が主人公または主人公と関わっている教材一覧（光村図書）

学年	内容項目	教材名	主題名
小1	A(5) 希望と勇気、努力と強い意志	おふろそうじ	じぶんの しごとを しっかりと
小1	B(7) 感謝	みんな みんな、ありがとう	ありがとうの きもちで
小1	C(13) 家族愛、 家庭生活の充実	これなら できる	かぞくの ために
小2	A(4) 個性の伸長	どうして うまくいかないの かな	自分の よいところ
小2	B(7) 感謝	一まいの絵	ありがとうの 気もちを
小2	C(13) 家族愛、 家庭生活の充実	もうすぐお正月	かぞくの 一人として
小2	D(19) 感動、畏敬の念	かさじぞう	うつくしい心とは
小3	A(3) 節度、節制	黄金の魚	よく考えて
小3	B(7) 感謝	とくジーのおまじない	まわりの人にありがとう
小3	B(13) 礼儀	あいさつ名人	相手につたわるれいぎ
小3	C(14) 家族愛、 家庭生活の充実	百六さい、おめでとう、ひい ばあちゃん	家族みんなで
小3	D(18) 生命の尊さ	ヌチヌグスージ ― 命の祭り	つながっている命
小4	B(7) 感謝	ぼくたちのバラ花だん	ちいきの人の感謝の心
小4	B(8) 礼儀	土曜日の学校	心を表すれいぎ
小4	C(13) 勤労、 公共の精神	琵琶湖のごみ拾い	働くことのすがすがしさ
小4	D(18) 生命の尊さ	おじいちゃんの ごくらく ごくらく	思いでつながる命
小5	B(7) 親切、思いやり	道案内	親切とは
小5	B(8) 感謝	おばあちゃんからもらった命	家族に感謝して
小5	C(15) 家族愛、 家庭生活の充実	祖母のりんご	家族のために
小5	C(17) 伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	曲げわっぱから伝わるもの	伝統や文化を守るために
小6	A(1) 善悪の判断、自 律、自由と責任	マイルール	自分の判断で
小6	C(12) 規則の尊重	ここを走れば	法やきまりを守って
小6	D(19) 生命の尊さ	おじいちゃんとの約束	かけがえのない命

表1-4 高齢者が主人公または主人公と関わっている教材一覧（東京書籍）

学年	内容項目	教材名	主題名
小1	B(6) 親切、思いやり	はなばあちゃんが わらった	しんせつ
小1	C(15) 伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	にちようびの さんぽみち	わたしたちの まち、わたした ちの くに
小2	B(9) 友情、信頼	ともだちやもんな、ぼくら	ともだちとの こと
小3	B(6) 親切、思いやり	六べえじいとちよ	思いやりの心
小3	B(7) 感謝	大通りのサクラなみ木	自分をささえてくれる人々
小3	B(8) 礼儀	あいさつをすると	だれにでもまごころをもって
小3	C(11) 規則の尊重	黄色いかさ	やくそくやきまり
小3	C(14) 家族愛、 家庭生活の充実	ぼくのおばあちゃん	家ぞくときょうりよくして
小3	C(16) 伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	ふるさといいとこさがし	国やきょうどのよいところ
小3	D(18) 生命の尊さ	ヌチヌグスージ (いのちのまつり)	大切ないのち
小3	D(18) 生命の尊さ	おじいちゃん、おばあちゃん、 見ていてね	大切ないのち
小4	B(6) 親切、思いやり	ポロといっしょ	思いやりの心
小4	B(7) 感謝	しょうぼうだんのおじいさん	自分をささえてくれる人々
小4	B(8) 礼儀	「ありがとう」の言葉	だれにでも真心を持って
小4	C(13) 勤労、 公共の精神	「もっこ」をせおって	進んでみんなのためにはたら く
小5	A(3) 節度、節制	「百シャアのふたごしまい」 きんさん・ぎんさん	自分の生活を見直す
小5	B(7) 親切、思いやり	くずれ落ちた だんボール箱	相手の立場に立って親切に
小5	C(14) 勤労、 公共の精神	わたしのボランティア体験	社会や公共のために役立つ
小5	C(17) 伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	親から子へ、そして孫へと	伝統や文化を受けついで
小5	D(19) 生命の尊さ	おばあちゃんが残したもの	かけがえのない生命
小6	B(7) 親切、思いやり	車いすでの経験から	相手の立場に立って親切に
小6	B(7) 親切、思いやり	心に通じた「どうぞ」のひとつ	相手の立場に立って親切に
小6	B(9) 礼儀	心を形に	時と場をわきまえ、真心を持って
小6	C(15) 家族愛、 家庭生活の充実	おばあちゃんのさがしもの	家族の幸せのために

表1-5 高齢者が主人公または主人公と関わっている教材一覧（学校図書）

学年	内容項目	教材名	主題名
小1	A(1) 善悪の判断、自 律、自由と責任	すっきり はればれ	こころ はればれ
小1	C(13) 家族愛、 家庭生活の充実	まんまるおにぎり	かぞくの ために



小1	C(15)	伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	むかしあそび	でんとうに したしもう
小2	A(4)	個性の伸長	はなかつぱの 大ぼうけん	自分の よさを 大切に
小2	C(13)	家族愛、 家庭生活の充実	ぼくにできること	かぞくのいちいんとして
小2	C(15)	伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	もっと知りたい、わたしの町	わたしの町のよいところ
小2	D(18)	自然愛護	からすの子	生きものを大切に
小3	A(2)	正直、誠実	まどガラスと魚	すなおな心で
小3	A(3)	節度、節制	金色の魚	よくばりな心
小3	B(6)	親切、思いやり	千羽づるのおみまい	相手の気持ちを考えて
小3	B(7)	感謝	ありがとう大塚さん	かんしゃの心をもって
小3	C(14)	家族愛、 家庭生活の充実	たんじょうび会のおにぎり	家族の大切さ
小3	C(16)	伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	おばあちゃんのおせち	わたしたちの文化
小4	A(1)	善悪の判断、自 律、自由と責任	近道	自分の考えをはっきりと
小4	B(7)	感謝	だがし屋のおばあちゃん	かんしゃの気持ちを
小4	B(9)	友情、信頼	ともだちやもんな、ぼくら	友じょうを深める
小4	C(11)	規則の尊重	ごみ出しの手伝いをして	きまりを守る
小4	C(14)	家族愛、 家庭生活の充実	ベッドの上の花ふぶき	家族のために
小4	D(18)	生命の尊さ	いのちのまつり	受けつがれる命
小5	B(8)	感謝	心にかける屋根シート	感謝する心
小6	B(7)	親切、思いやり	思いやりのかたち	本当の思いやり
小6	B(8)	感謝	おばあさんの新聞	感謝の心を伝えて
小6	C(15)	家族愛、 家庭生活の充実	その思いを受け継いで	家族の思いを知る

表1-6 高齢者が主人公または主人公と関わっている教材一覧（あかつき）

学年	内容項目	教材名	主題名
小1	B(6) 親切、思いやり	空のクレヨン	みちかな 人に しんせつに
小1	C(10) 規則の尊重	あぶら山	やくそくや きまりを まも らないと
小1	C(12) 勤労、 公共の精神	みんなのために ー フローレンス・ナイチンゲール ー	だれかの やくに たつため に
小1	D(17) 生命の尊さ	まりちゃんと あさがお	いのちって すごいね
小2	A(3) 節度、節制	えんぴつは何さい	ものを 大切に
小2	C(13) 家族愛、 家庭生活の充実	おばあちゃんのおふろ	大切な 家ぞくの ために

小3	A(2)	正直、誠実	まどガラスと魚	わったのはだれだ
小3	A(3)	節度、節制	金色の魚	よくばりなおばあさんは・・・
小3	B(6)	親切、思いやり	親切の旅	親切がぐるぐる回って
小3	B(6)	親切、思いやり	落ちていたきつぷ	きつぷといっしょにとどけた心
小3	B(6)	親切、思いやり	拾ったりんご	おもしろかったただけなのに
小3	B(8)	礼儀	電話のおじぎ	相手には見えないけれど
小4	B(6)	親切、思いやり	心と心のあく手	おばあさんのためにぼくができること
小5	B(7)	親切、思いやり	くずれ落ちた だんボール箱	温かい心
小5	B(8)	感謝	小さかったお返し	二度目のアジは・・・
小5	C(15)	家族愛、 家庭生活の充実	ごめんね、おばあちゃん	言ってはならないこと
小5	D(19)	生命の尊さ	その思いを受けついで	つながるもの
小6	B(7)	親切、思いやり	おばあちゃんの指定席	だれに対しても
小6	B(8)	感謝	最後のおくりもの	二人の思い

表1-7 高齢者が主人公または主人公と関わっている教材一覧（教育出版）

学年	内容項目	教材名	主題名
小1	A(5) 希望と勇気、 努力と強い意志	おふろばそうじ	じぶんがやるべきこと
小1	C(12) 勤労、 公共の精神	森のゆうびやさん	はたらくことのよさ
小1	C(13) 家族愛、 家庭生活の充実	おじいちゃん大すき	大すきなかぞく
小2	B(7) 感謝	ありがとうはだれがいう？	ありがとうの気持ち
小3	A(2) 正直、誠実	まどガラスと魚	正直に明るい心で
小3	B(7) 感謝	公園のひみつ	感しやの気持ちをもって
小3	B(8) 礼儀	どうしていけないのかな(スキル)	真心をもって
小3	C(11) 規則の尊重	音のこうずい	社会のきまりを守って
小4	A(2) 正直、誠実	だまっていればわからない(スキル)	正直に明るい心で
小4	B(6) 親切、思いやり	心と心のあく手	相手を思いやって
小4	B(8) 礼儀	あいさつでつながる(スキル)	真心をもって
小4	D(18) 生命の尊さ	おばあちゃんとの思い出(生命尊重)	命を大切に
小5	B(7) 親切、思いやり	ほのぼのテスト	相手の立場に立って
小5	C(15) 家族愛、 家庭生活の充実	わたしにできること	家族の幸せのために
小6	A(3) 節度、節制	安全についてみんなで考えてやってみよう(スキル)	節度・節制を心がけて

表1-8 高齢者が主人公または主人公と関わっている教材一覧（光文書院）

学年	内容項目	教材名	主題名
小1	B(6) 親切、思いやり	おとしよりといっしょに	あいての きもちに なって
小1	C(13) 家族愛、 家庭生活の充実	ぼくにもたせて	かぞくの ために できる こと
小1	C(15) 伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	まちたんけん	わたしの まち だいすき
小2	B(7) 感謝	はたけの先生	おせわに なって いる 人
小2	C(10) 規則の尊重	おとす人、ひろう人	だれもが きもちよく
小2	C(13) 家族愛、 家庭生活の充実	わたしのおじいさん、おばあ さん	おじいさん、おばあさんの 力
小3	B(6) 親切、思いやり	おばあちゃんのコースター	心がとどくとき
小3	B(7) 感謝	おばあちゃんのおせち	おばあちゃんってすごい
小3	B(8) 礼儀	電話のおじぎ	心をこめて
小3	C(11) 規則の尊重	心の優先席	きまりを生むもの
小3	C(12) 公正、公平、 社会正義	お日さまの心で	だれとでもなかよくするため に
小3	C(16) 伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	こまったときは、おたがいさ ま	日本人の心
小3	D(18) 生命の尊さ	いのちのまつり	いのちのつながり
小3	D(18) 生命の尊さ	うみねことたんぼぼ	生きる力
小3	D(18) 生命の尊さ	命どうたから	命をかがやかせる
小4	A(1) 善悪の判断、自 律、自由と責任	心にブレーキ	心にブレーキ
小4	D(19) 自然愛護	鳥にのこしたかきの実	動物といっしょに生きる
小5	B(7) 親切、思いやり	藤井駅のホームでのできごと	親切を生むもの
小5	C(14) 勤労、 公共の精神	母の仕事	働くことの意義
小5	C(14) 勤労、 公共の精神	ちひろの思い	わたしにできること
小6	B(9) 礼儀	温かいおまんじゅう	本当の礼儀とは
小6	C(17) 伝統と文化の尊重、国 や郷土を愛する態度	お茶の心	もてなす心

表1-1から表1-8をもとに、各内容項目の教材数を小学1・2年、小学3・4年、小学5・6年別に示した（図1）。

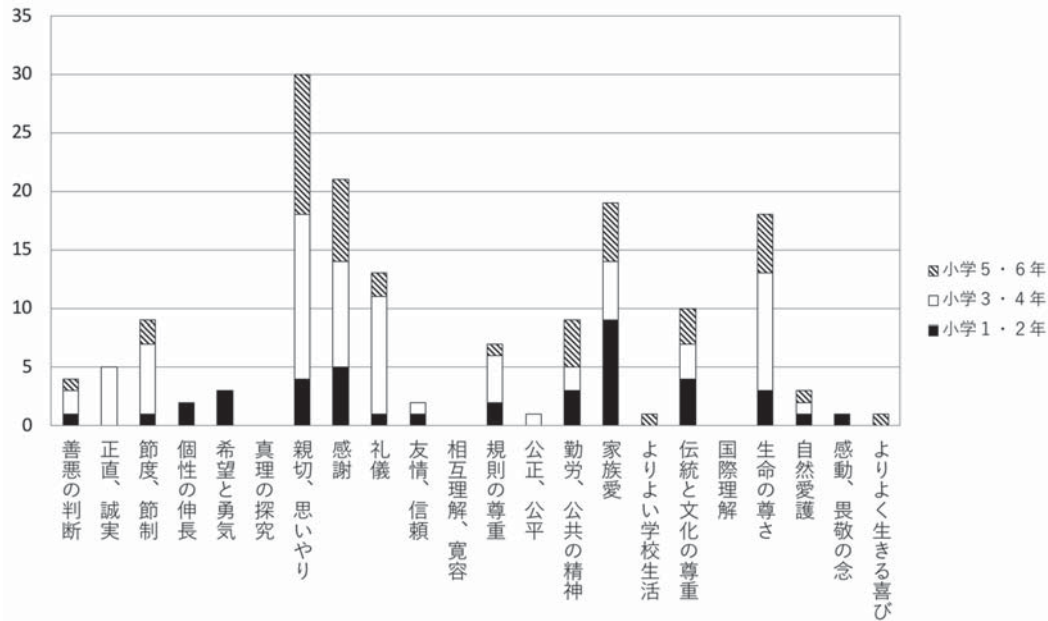


図1 内容項目における教材数（小学1・2年、小学3・4年、小学5・6年別）

図1より、「親切、思いやり」、「感謝」、「家族愛」、「伝統と文化の尊重」、「生命の尊さ」は小学1・2年、小学3・4年、小学5・6年とも記載されていた。また、小学1・2年、小学3・4年、小学5・6年とも記載されて内容項目は11カ所あった。

内容項目の数は、小学1・2年では19、小学3・4年では20、小学5・6年では22なので、高齢者が主人公または主人公と関わっている教材は全学年に幅広く分布していた。

また、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」第4章 第3節 6(2) 現代的な課題の扱い(p.96)には、「道徳科の内容で扱う道徳的諸価値は、現代社会の様々な課題に直接関わっている。児童には、発達の段階に応じて現代的な課題を身近な問題と結びつけて、自分との関わりで考えられるようにすることが求められる。現代社会を生きる上での課題を扱う場合には、題解決的な学習を行ったり話し合いを深めたりするなどの指導方法を工夫し、課題を自分との関係で捉え、その解決に向けて考え続けようとする意欲や態度を育てることが大切である。例えば、食育、健康教育、消費者教育、防災教育、福祉に関する教育、法教育、社会参画に関する教育、伝統文化教育、国際理解教育、キャリア教育など、学校の特色を生かして取り組んでいる現代的な教育課題については、各教科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動における学習と関連付け、それらの教育課題を主題とした教材を活用するなどして、様々な道徳的価値の視点で学習を深めたり、児童自身がこれらの学習を発展させたりして、人として他者と共によりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きていくべきかなどについて、考えを深めていくことができるような取組が求められる。また、例えば、持続可能な発展を巡っては、環境、貧困、人権、平和、開発といった様々な問題があり、これらの問題は、生命や人権、自然環境保全、公正・公平、社会正義、国際親善など様々な道徳的価値に関わる葛藤がある。このように現代的な課題には、葛藤や対立のある事象なども多く、特に「規則の尊重」、「相互理解、寛容」「公正、公平、社会正義」、「国際理解、国際親善」、「生命の尊さ」、「自然愛護」などについては現代的な課題と関連の深い内容であると考えられ、発達の段階に応じてこれらの課題を取り上げることが求められる。」と記述されている。

記述にある「福祉に関する教育」・「社会参画に関する教育」・「人権」・「相互理解、寛容」・「生命の尊さ」などの言葉から、現代的な課題の中には、高齢者に関わる社会問題（超高齢社会、認知症など）も含まれる。その視点で小学校の教材を注視すると、下記のような教材があった。

1) 光村図書 5年『祖母のりんご』<sup>7)</sup> (家族愛、家庭生活の充実)

本当にいやになる。今度はわたしのお気に入りのひざかけをぞうきんだと思って、部屋をそうじするのに使っていた。この前は、あらっておいたわたしの水とうに、どこからか つんできた花が生けてあった。「もう、なんなの、おばあちゃん。わたしの物を勝手にいじらないで。これ何かも分からないの？」わたしは、すっかりよごれてしまったひざかけを手に、祖母につめ寄った。こんなことを言ってもむだなのは分かっているけれど、がまんができなかった。

2) 東京書籍 6年『おばあちゃんのさがしもの』<sup>8)</sup> (家族愛、家庭生活の充実)

そんなおばあちゃんが、ある日、夜になっても帰ってこない。みんなで心配していたら、警察から電話がかかってきた。すごく遠くの公園で迷子になっていたんだって。……「昨日は、どうして遠くへ行っちゃったの？ 心配してたんだから。」わたしがいくらきいても、おばあちゃんは不思議そうな顔をしているだけ。まるで昨日のことなんかわすれちゃったみたい。

3) あかつき 5年『ごめんね、おばあちゃん』<sup>9)</sup> (家族愛、家庭生活の充実)

しかし、一年ほど前からずいぶん耳が遠くなり、体も思うように動かなくなってきた感じがする。米をとげば分量をまちがえ、ふろに水を入れれば止めわすれ、ご飯やおかずをぼろぼろとこぼすなど、小さい子どものようだ。

4) 教育出版 5年『わたしにできること』<sup>10)</sup> (家族愛、家庭生活の充実)

わたしが小学校5年生になったところです。私は、おじいちゃんが少し変なことをいい始めたことに気づきました。「おおい、道子。」と、私をお母さんの名前でよぶことがありました。また、別の日には、「お昼ご飯は、まだかい。おなかがすいてしまったよ。」と、さっきいっしょにお昼ご飯を食べたばかりなのに、おなかがすいたというのです。わたしは、心配になってお母さんにたずねました。「ねえ、おじいちゃん少し変だよ。わたしのことをお母さんとまちがえたり、ご飯食べたのに、おなかがすいたっていったりしてさ。どこか悪いんじゃないのかな。病院に連れていったほうがいいんじゃないの。」

上記の1)～4)の教材は、主人公にとっては身近な存在である祖父母が今までとは違った様子（認知症の主な症状である記憶障がい、見当識障がいなど）に戸惑う主人公の心情が表現されていた。教材には「認知症」とは記載されていないが、「認知症」と気づく子どもたちがいると考えられる。

## (2) アンケート結果について

### I. 「認知症」について知っていますか？

という質問については、図2の通りであった。

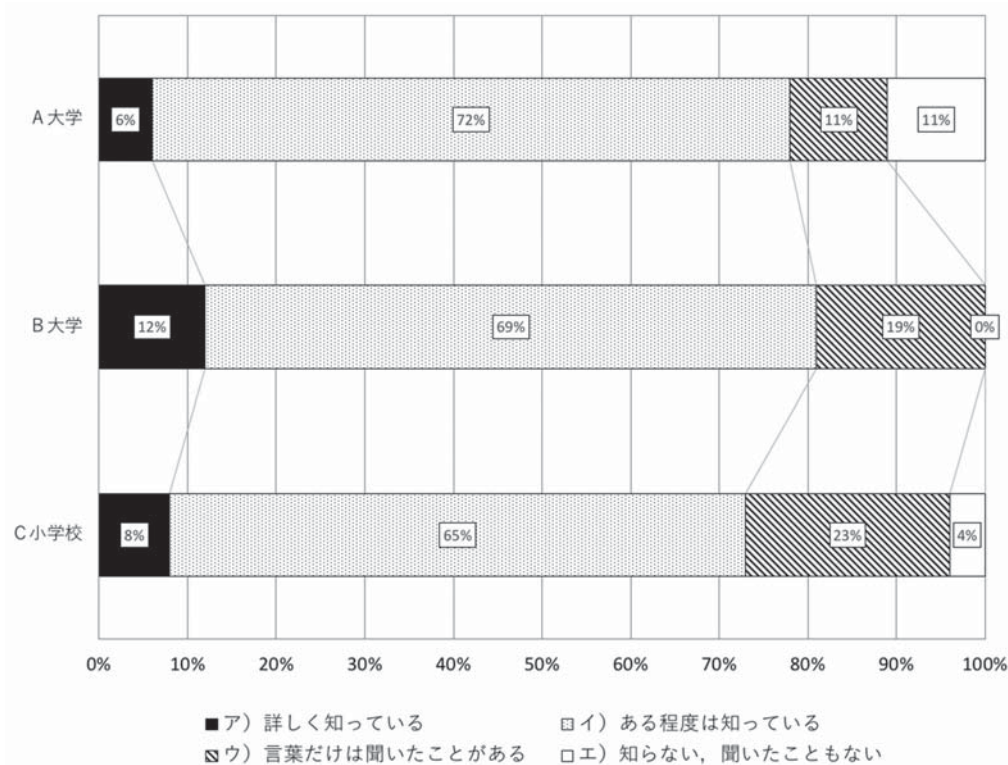


図2 A大学、B大学、C小学校ごとの回答の割合（％）

Ⅱ. ㊦または㊩と答えた方 「認知症」にどんなイメージを持っていますか？

という質問については、以下の回答があった。（複数の回答もあり、5人以上の回答には波線で示す）

A大学

- ・物忘れが多くなる
- ・自分がした行動を覚えていない
- ・脳の病気 若い人でもなる
- ・進行を遅くする薬はあるが、治せる薬はまだない
- ・人の判別もつかなくなる
- ・周りに迷惑をかけてしまっている
- ・どこに物を置いたか覚えていない
- ・感情が激しくなる
- ・感情もわかりにくく、記憶も少ない、何度も同じことを聞く
- ・昔の出来事や好きな歌などは覚えている
- ・家族や介護する人がたいへん
- ・一緒に過ごしている人はたいへん
- ・徘徊する、迷子になって帰れない
- ・物が覚えられなくなる
- ・自分ではなかなか自覚することは難しい
- ・周りの方が支えることが一番必要
- ・周りの人たちが一番「理解」してあげないといけない



B 大学

- ・ どんどん物忘れになってしまう病気。高齢者がこの病気になるイメージがある
- ・ 介護が大変な病気
- ・ 人の性格も変わってしまう病気
- ・ 祖父が認知症。今は小学生みたいな一面もあり、薬を飲んだ飲んでいないがわからなく、お母さんがわかるように工夫していた
- ・ 自分がした行動を覚えていない。家族のことを忘れてしまう
- ・ 若い頃にしっかりしていた人の方がなりやすいと聞いたことがある
- ・ ほけてしまう。悲しいイメージ
- ・ 自分ではどうしようもないから、介護や他の人からのサポートが必要
- ・ 過去の記憶はあるが、現在の記憶はない
- ・ 日常生活に影響が出るほど、物や人を忘れてしまう

C 小学校

- ・ 物忘れがひどくなる。すぐ忘れてしまう。主に高齢者だが、30代ぐらいからでも起こる
- ・ さっきまで覚えていたことをすぐに忘れてしまう。アルツハイマー病ともいわれる
- ・ すぐにいろいろなことを忘れる
- ・ 加齢につれてやってくる、物・人の名前・言葉などを忘れる病気
- ・ 何回も同じ話を話したり、同じことを聞いたりしてしまう
- ・ お札（お金）を使って、小銭だらけになる。物を数えることができない
- ・ こわい病気だと思う
- ・ もし身内がなったら心配、早く気づいてあげたい

Ⅲ. ㊸または㊹と答えた方 「認知症」についてどんなことを知りたいですか？

という質問については、以下の回答があった。

A 大学

- ・ 男性と女性どちらが多い
- ・ 何歳くらいからなる

B 大学

- ・ どんな症状が出るのか
- ・ 何に気をつければよいか
- ・ 対応の仕方

C 小学校

- ・ どんな症状があるのか知りたい
- ・ 私たちもなるのか

学校の違いによって、回答の割合に差があるかどうかをフィッシャーの正確確率検定を用いて検討した（表2）。



表2 学校ごとの回答数

		回答項目			
		ア) 詳しく 知っている	イ) ある程度 知っている	ウ) 言葉だけは 知っている	エ) 知らない、 聞いたこともない
調 査 対 象 校	A大学	7	85	13	13
	B大学	2	12	3	0
	C小学校	2	17	6	1
Fisher' s Exact Test for p-value = 0.3502					

その結果、得られたP値は0.3502であり、学校が違っていても回答の割合には差がないといえる。

アンケート結果から、「認知症」について、（知っている・ある程度知っている）割合は、大学生78～81%・児童は73%、（言葉だけ聞いたことがある・知らない）割合は、大学生19～22%・児童27%になっていた。

また、「認知症」に対してのイメージや「認知症」について知りたいことについては、「物忘れが多くなる」「自分の行動を忘れる」などの症状のネガティブな部分だけが報道番組を含む色々な情報から強調されやすいため、結果として、「できない人」、「かわいそうな人」、「怖い病気」、「なりたくない」、「自分たちもなるのか心配」などの意識をもたせてしまう傾向がみられた。

全体的には、小学6年生と大学1・2年次生の意識の差はあまりないと考えられる。

## 5 考察

アンケート結果から、児童・大学生の「認知症」に対する意識があまり変わらないという大きな課題が浮かび上がった。超高齢社会を迎えている日本にとって、「認知症」についての正しい知識を学び、「認知症」の人や家族を支える手立てを実践していくことは重要である。「認知症」の学習をする機会が少なかったら、児童は10年足らずで大学生と同じ年頃になり、アンケート結果のような意識のまま成長していく可能性がある。

そこで、道徳の授業と切り離して位置づけることなく、「認知症」のことを学習する授業が必要であると考えられる。なぜなら、体験活動を重視するということから、障がい者や高齢者の疑似体験をするというプログラム（視覚障がいを理解するためにアイマスクをしたり、高齢者の日常生活動作の低下を体験するために身体に負荷をかけたりする体験）があるが、私が勤務していた中学校の子どもたちが書いたワークシートを読むと、疑似体験は障がいのネガティブな部分だけを強化してしまい、結果として、「かわいそうな人」「できない人」という意識をもたせてしまう傾向の感想があった。

今回の教科書には、高齢者が主人公または主人公と関わっている教材が全学年に幅広く分布しているため、授業を通じて、地域の高齢者から地域の歴史や伝統について教えてもらった、公園で転んだ時にお年寄りから優しい声をかけてもらった、自分たちが何か高齢者にしてあげることはないかなど、豊かな心が培われることが期待できると考えられる。さらに、教材の中には現代的な課題である高齢者に関わる社会問題（超高齢社会、認知症など）が含まれているので、祖父母、地域の高齢者と敬愛の気持ちとともに、尊敬をもってどのように接していくかと考えていくことにもつなげられる。このことは、小学校学習指導要領解説「特別の教科 道徳編」の現代的

な課題の扱いにも、「総合的な学習の時間」などに関連付け、人として他者と共によりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きていくべきかなどについて、考えを深めていくことができるにしていけることが記述されている。

そこで、「認知症」との関わりを自分自身の問題と捉えるために、横断活動として、「総合的な学習の時間」と「道徳の授業」のリンクした授業の取り組みが考えられる。

「総合的な学習の時間」には次の2点をねらいとしている。

1. 自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てる。
2. 学び方やものの考え方を身につけ、問題解決や探究活動に主体的、創造的に取り組む態度を育て、自己の生き方を考えることができるようにする。

国際化、情報化などの社会の変化に対応し、自ら学び考え、豊かな心をもって、社会生活を主体的に切り開いていく力を育てる「総合的な学習の時間」は、子どもたちの道徳性を育てるうえで重要な鍵となる。特に子どもたちの興味・関心に基づく課題、地域や学校の特色に応じた課題を追求していくことは、個々の生き方を探求するものにつながる。

また、体験的、問題解決的な学習は、グループ学習や異年齢集団とのかかわりを生む。これは道徳的価値観を具体化するうえで重要である。

8社の教科書を精読した感想は、授業がしやすいように懇切丁寧な内容になっていることだった。それだけに、「教科書を読んで感想を書いて終わり」という授業になってほしくないと願っている。教科書に依存する授業に陥らないために、また、高齢者を敬愛し尊厳をもって接する観点からも、相互に啓発する「総合的な学習の時間」と「道徳の授業」のリンクした取り組みを今後の研究を通して明らかにしていきたい。

## 引用文献

- 1) 総務省統計局「国勢調査」の人口等基本集計結果 要約より引用。東京。平成28（2016）年6月29日。
- 2) 「厚生白書 昭和61（1986）年版」（第1編 第1章 社会保障制度の再構築に向けて 第1節 一層進む長寿化と人口高齢化 2 超高齢社会の到来）。東京。厚生省。昭62（1987）年1月。
- 3) 2013年厚生労働省研究・研究代表 朝田 隆。厚生労働科学研究費補助金 認知症対策総合研究事業「都市部における認知症有病率と認知症の生活機能障害への対応」。平成23年度～平成24年度 総合研究報告書。平成25（2013）年3月。p. 14
- 4) 「道徳教育推進指導資料（指導の手引き）4 中学校 読み物資料とその利用―主として集団や社会とのかかわりに関すること―」。東京。文部省。平成6（1994）年9月20日
- 5) 横山利弘・藤永芳純・柴原弘志・白木みどり ほか18名。「中学校道徳 読み物資料集」。東京。文部科学省。平成24年3月。
- 6) 「小学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編」。東京。文部科学省。平成29（2017）年6月。
- 7) 朝倉諭美子・杉中康平・田沼茂紀 ほか14名。「道徳5年」きみがいちばんひかるとき。東京。光村図書出版株式会社。2017年3月2日検定済 印刷中 p. 40
- 8) 渡邊 満・押谷由夫 ほか44名。「新しい道徳6」。東京。東京書籍株式会社。2017年3月2日検定済 印刷中 pp. 24-25
- 9) 横山利弘・七條正典・柴原弘志 ほか 16名。「小学生の道徳5」みんなで考え、話し合う。東京。廣済堂あかつき株式会社。2017年3月2日検定済 印刷中 p. 130
- 10) 林 泰成・貝塚茂樹・柳沼良太 ほか24名。「小学道徳」はばたこう明日へ5。東京。教育出版株式会社。2017年3月2日検定済 印刷中 p. 93